

2020年3月1日  
 現勢2,700名  
 前月比-2名  
 2,705名(1/1付)

# 小平東村山

発行所  
 東京土建一般労働組合  
 小平東村山支部  
 小平市仲町381番地  
 電話 042-342-2846  
 FAX 042-342-2848  
 発行人 川口 直明

## 後継者対策部主催 第4回こだひが会

# 同年代の絆 より強固に

## 54歳以下組合員だけの交流会



同年代ならではの盛り上がり

2月22日(土)東村山市のサンパルネにて、後継者対策部主催『第4回こだひが会』を開催しました。  
 立食形式でお酒・食事を交えながら、全体32名の参加者で交流を深めました。



青年部書記長も参加

日中仕事を終えた参加者たちが続々と会場に集結。予定通り20時から開始となりました。  
 こだひが会は今年で4回目の開催。後継者対策部が主催する54歳以下組合員限定の交流会で、支部再編以降毎年開催して

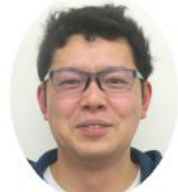


どんとこい!

います。参加者が同年代だけだからこそ、ざっくばらんな会話・交流ができる場として、多くの組合員から好評を得ています。  
 この日も、仕事のつながりをつくる人や、趣味の話で盛り上がる人など様々。組合のイベントで

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、予定されている会議や動員が変更があります。今後の報告を確かなる機会を確保してください。

## テーブルチェンジで交流すすむ 次回の企画にもぜひ参加を



山内 勝行 後継者対策部長

今年も例年通りテーブルごとに分かれてスタートし、初めての試みとしてテーブルチェンジタイムを設けさせていただきました。前半・後半とより一層たくさんの方と話すことができました。来年も、家族ぐるみでの企画と、仕事に結び付くような企画を開催予定しています。多くの組合員さんの参加お待ちしております。

第4回のこだひが会も無事終了しました。参加していただいた方々ありがとうございました。今年も、現地に到着した時点で開始30分前でしたが、参加者の方が2人しかいなくて本当に皆さん来ていただけるとか心配になりました。

東京土建小平東村山支部第4回定期大会を下記の通り招集します。  
 ※新型コロナウイルス感染症拡大を受け、3月支部執行委員会と協議した結果、以下の開催方法を変更する場合があります。

- 一、日時  
4月5日(日) 9時30分開会
- 二、会場  
東村山市市民センター 2階会議室

- 三、大会代議員  
現職の支部役員が選出されるほか、各分会選出の代議員定数は2020年1月1日付組織人員の
- ①執行委員長 1名  
②副執行委員長 若干名  
③書記長 1名  
④書記次長 若干名

### 第4回支部定期大会告示

- ⑤常任執行委員 10名  
⑥執行委員 20名  
⑦会計監査 2名
- なお、各役員の立候補者が定数を超えた場合は

辞典によると「理不尽」とは「道理にあわないこと・むりむたい」とある。では「道理」とはというと、「人の行う正しい道・道義」だそう。▼地位や権力を持つている「先生」は、どうやら理不尽がお好きらしい。それも、とびきり大きいものだ。友人・知人の学校づくりを優遇したかと思ったら、たいした能力もない人を適材適所と言いつ張り大臣にする。金目当てで役人になったような人達をまわりにはべらし、問題が起きれば自己責任だからと切り捨てる。▼とどめは公の行事を私物化して、自身の後援会行事としてしてしまうのも驚くが、問い詰められると書類がないだの自分は感知してないだの、他人の所為にする。かわいくないのは、懺悔無礼な態度で善処するとか是正するとか言うところ。歴代一位の在任記録となったが、さすがにこの位も第一位だ。▼繰り返しの行方正しい道とは、「人の行う正しい道に合わないこと」である。そんなことをする人に法と憲法をいじってほしくない。そんなことをする人は辞めてもらえない。

T・M



旅先で友情を深めた仲間たち

旅仲間たちと力オサ  
ン通りにやってきた。  
400Mほど続くパン  
コクの道路で、両脇に  
はギラついた看板が連  
なり夜を明るく染め、  
様々な国の人で溢れか  
えっている。美味しそ  
うなスイーツ、ゲテモ  
ノ料理、揚げ物やアク

積み重なる思い出

【青年部 副部長  
國崎 大志】

# ぼったくいの 世界一周冒険日記③

異国の地での出会い別れを経て 物語は第三章に突入！舞台はいよいよ中東へ

チェンマイにきた。パ  
ンコクとは異なり、緑豊  
かな都市だ。  
ここに来た目的はカレ

## カレン族との出会い

セサリーなどの屋台。思  
い切ってサンリを食べた  
ことやトゥクトゥクの揺  
れる運転に悲鳴を上げて  
大笑いしたり、消えるタ  
トゥーを入れて写真を撮り  
あつたりしたことは今  
でも忘れない。今この街  
が笑顔で溢れている。私  
と同じこの時間、日本に  
いる友人は何をしているの  
だろう、ふとそんなこと  
を思った。



観光客向けに衣類を販売しているカレン族

ン族に会うためだ。旅仲  
間とバイクをレンタル  
し、山道で何度も転びそ  
うになりながらも、無事  
カレン族の暮らす村にた  
どり着いた。古びた木造  
の家の玄関前にはカラフ

ルな衣類が売りに出さ  
れ、カレン族たちが私を  
見ていた。首元に金色の  
リングが何重にも束に  
なった首輪をつけてい  
る。これがカレン族特有  
の文化なのだ。首が長け  
れば長いほど美しいとい  
った意味があるらしい。  
同じ人間なのに、  
我々には理解しがたいこ  
とだ。このとき私の当た  
りまとは何なのかと自分  
分に問いただした。「みん  
なちがってみんないい」  
それが私の導き出した答  
えだった。

日本を出てから約2週  
間が経ち、私は出会った  
人々への感謝を心の中に  
抱き、旅仲間に見送られ  
てタイを後にした。いざ  
ネパールへ！

## 仲間との別れ

その夜、ネパールの首  
都カトマンズにあるトリ  
ブバン国際空港に着き、  
タクシーで市街地に向  
かった。辺りは真っ暗で  
何も見えない。私の中で  
中東は危険な国といった  
イメージが強かっただけ  
に、暗闇を走行するその  
時間がとてつもなく不安  
を掻き立てた。  
また、ひとり旅が始ま

した様子でした。  
分会運営に関するマジ  
メな話や、仕事の状況や  
人生を振り返ったり、い  
ろいろな意見交換があち  
らこちらで。和やかな雰  
囲気の中、あっといいう間  
にお開きになってしま  
いました。  
常連ばかりの参加で新  
規の参加者がいなかった  
のが残念でしたが、今後  
も声掛けを続けていき  
たいと思います。

## ベテラン職人を襲った災難... 現場で起きた小さな悲劇から学ぶ

3日目。施主の奥  
さんが出てきて怖い  
顔をしている。「埃で  
車が真っ黒になっ  
た」という。昨夜の  
雨のせいもあり確か  
に汚れが目立つ。あ  
げくには「知り合い  
の車が埃の汚れで全  
塗装し150万か  
かったそうだ」との  
たまう。「こんな埃は  
洗車すれば綺麗にな  
るだろうアホが」と  
内心思いつつもじつ  
と我慢。すぐ組合に電話  
し工事賠償保険の相談。  
床のはつりでも工事環  
境にはよるが「車には  
シートをかけるほうが安  
全である」とおじさんは  
反省したそうである。

# 踊って歌って 盛大に新年を祝う



会場の和室に63名が終結



参加者も飛び入りで踊りに加わった

【上宿 下條隆  
久記】  
2月22日（  
土）11時より小  
平市福祉会館で  
「けやきの会」  
の新春のつどい  
が開催され、会

員など63名が参加しまし  
た。  
開会にあたり山岸会長  
より「新支部結成から5  
周年を迎える。会員の  
方々には、各行事や動員  
等の行動参加に協力して  
いただき感謝している」  
との言葉がありました。  
乾杯は土屋実行委員長  
に代わり佐藤さん（上  
宿）の音頭で、いよいよ  
交流会が開始しました。  
今回の新春のつどい開催  
にあたり、役員である主  
婦の方々の手作りの漬物  
をはじめ、寿司、つまみ  
などたくさん料理を嗜  
みながら和気あいあいと  
進行。  
しばらくして仲間の踊

りが始まりました。渡邊  
さん（小平東）は「六段  
くづし」より、絵島・生  
島を披露。さらに高須さ  
ん（美園）による美川憲  
一「春待ち坂」、市さん  
（美園）による「かっぱ  
れ」といった素晴らしい  
踊りを楽しませてもら  
いました。  
後半はカラオケの部に移  
行。多くの方々の美声で

## 馴染みの仲間と和気あいあい 小川分会 毎年恒例の新年会を開催

【小川 安立孝章 通信  
員】  
2月8日（土）の夜、  
青梅街道駅そばの『長江  
宴』にて小川分会では毎  
年恒例の新年会を開催し

ました。  
参加者は当分会所属の  
井上執行委員長、小平副  
執行委員長、書記2名を  
含めた合計24名。皆さん  
久しぶりの飲み放題付き  
中華のコース料理という  
こともあり、とても満足



いつも元気な6群の仲間たち

人々への感謝を心の中に  
抱き、旅仲間に見送られ  
てタイを後にした。いざ  
ネパールへ！



## 【野火止 Hさん（タイ ル工）】

あるタイル屋のおじさ  
んの話。あまりの悲惨さ  
に同情を越え笑って  
しまった。  
ハウスメーカーの  
下請けで戸建て住宅  
のタイル張替工事。  
新宿区の現場で、2  
台ある施主の車の横  
に工事用車も駐車し  
てOKと、都内では  
珍しく余裕のあるお  
宅。自分の工事用車  
が盾になり施主の車  
に解体破片は飛ばな  
いと考え工事開始。  
1日目。解体を30  
分程度やった時、破  
片のゴミがおじさんの目  
に入りました。「痛くて  
駄目だ」我慢できず病院  
へ直行。「ハツリはメガ  
ネを掛ける（当たり前）」  
2日目。この日は現場  
に車が置かず近所のパー

キングへ。1800円の  
文字が大きく見え、ラッ  
キーでなもんで入庫。工  
事が終わりに車に戻ると、  
なんと驚愕5700円。  
壊れてやがると機会を叩  
き改めて看板を確認する  
と、1800円は「土日  
のみ」と小さく表示。  
「パーキングの料金は注  
意、確認をせよ」

3日目。施主の奥  
さんが出てきて怖い  
顔をしている。「埃で  
車が真っ黒になっ  
た」という。昨夜の  
雨のせいもあり確か  
に汚れが目立つ。あ  
げくには「知り合い  
の車が埃の汚れで全  
塗装し150万か  
かったそうだ」との  
たまう。「こんな埃は  
洗車すれば綺麗にな  
るだろうアホが」と  
内心思いつつもじつ  
と我慢。すぐ組合に電話  
し工事賠償保険の相談。  
床のはつりでも工事環  
境にはよるが「車には  
シートをかけるほうが安  
全である」とおじさんは  
反省したそうである。